

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1272500511
法人名	特定非営利活動法人さわやか福祉の会流山ユー・アイネット
事業所名	グループホーム「わたしの家」
所在地	〒270-0107 千葉県流山市西深井176-1 (電話) 04-7155-6031

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	5月2日

【情報提供票より】(19年3月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	17 人	常勤	9人, 非常勤 8人, 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨プレス造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,000円	その他	食費40,000,水道光熱費25,000,理美容,オムツなど	
敷金	無		有りの場合 償却の有無	無:(補修・債務の担保)
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)			
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	14 名	男性	1 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	流山中央病院
---------	--------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

流山市に最初に来た同ホームも、今年で7年目。桂ユニット・楓ユニットとも、認知症対応や看取りにおいて、さまざまな経験を重ね、新興のグループホームのリーダー的存在として安定した運営を続けている。開設からずっと勤める馴染みのケアワーカーが、プロフェッショナルらしい落ち着きと知識で、入居者への対応にあたっており、安心感が満ち満ちている。育児休暇中の職員たちが赤ちゃんや幼い子供を連れてホームに遊びに来ることも多く、入居者と子供がほほえましい関係を築いている様子が見受けられた。昨年1年間は、珍しく職員の入退職が続いたため、人手不足に悩まされた時期もあったが、現在は新人職員が少しずつホームに慣れ始めており、落ち着きを取り戻している。このほど、ついに明治生まれの入居者が0になり、替わって昭和生まれの入居者が入り始めているという同ホーム。日々、入居者本意のケアを模索し続けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における改善点は特に無し。改正介護保険において新たに定められた地域密着型サービスの事業所として、地域とのあり方、運営推進会議のあり方などを検討しているところである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が意見を出し合い、各ユニットのリーダーが文章化した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は過去に6回開催している。しかしながら、職員の入退職等で忙しかったため、平成19年11月以降は開催していない。参加者は西御門地区自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、地区社協会長、グループホームの利用者、家族、職員、併設のデイサービス職員など。会議ではあまり意見がでず、運営推進会議の意義について模索しているところである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会があり、ホーム職員抜きでの話し合いの場を設けている。意見等がある場合は、その時に言ってもらい、家族代表がホームに伝えるようになっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同ホームのある西御門地区は、農業に従事する高齢者が多い地域である。ホームと併設のデイサービスの利用を呼びかけているが、訪問は少ない現状である。自治会の健康体操に参加したり、中学生の体験学習を受入れたりといった交流はある。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の尊厳が保たれれば安心を得ることができ、安心はホームへの信頼へと繋がると考え、「安心」「尊厳」「信頼」をホームの三本柱としている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の忙しい時にこそ、あるいは大変な時にこそ、理念に必ず立ち返り、ケアに反映させるように、常日頃から話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	西御門地区の自治会に参加している。地域の健康体操の集まりに出たり、ホームの夕涼み会に近隣の人を誘ったりもする。中学生の体験学習なども受入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が意見を出し合い、ケアマネジャーが報告書にまとめて作成した。今年度から地域密着型サービスと呼ばれるようになり、そのあり方について、特に意見交換が行われた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの紹介や入居者の現状報告を行っている。参加者は自治会長、民生委員、地区社協会長、地域包括支援センター長およびホームの関係者。しかしながら活発な意見交換はあまり行われず、運営推進会議を開催する意義について、模索しているところである。		地域におけるホームのあり方や地域協力の必要性などについて、再考されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同ホームは流山市で初の認知症高齢者グループホームであるため、常に市とは相談や勉強しあいながら、運営を続けてきた。また、流山グループホーム連絡会でも、市の介護支援課職員と意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭出納帳の写しを家族に送付しており、併せて短いメモで入居者の様子をお知らせしている。ほかに面会時やケアプラン作成時に話をする機会を作っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で、ホーム職員が席を外し、家族だけで意見交換し合う時間を設けている。そこで出た意見は、家族会会長からホームに伝えられ、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員が入った際は、管理者が「私の知合いです」と紹介する。そうすると入居者は安心して受入れるとのことである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに応じた研修の計画を立て、それを実行するには至っていない。新人職員にはベテラン職員が補佐につき、実際にケアをしながら指導している。		内部での勉強会などで、定期的に介護のスキルや知識を学ぶ機会を作ることが必要と思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県および流山市のグループホーム連絡会で、同業者と意見交換を行っている。県主催の開設者研修の見学場所にもなっており、新規にグループホームを立ち上げる事業者にレクチャーしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居申込者本人にホームを見てもらったり、併設のデイサービスを利用してもらったりして、住み替えの影響がでないよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>センター方式アセスメントシートを利用し、入居者の生活歴や得意な事柄を職員間で情報共有している。入居者はそれぞれ役割を持ち、趣味を活かして生活している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>あらゆる機会を捉え、言葉や動作、表情などから思いや意向の把握に努めている。表出が困難な入居者については、職員が本人本位と思ったことも違うことがあるが、会議の場で「本人の気持ちシート」を職員全員で考えて書くなど工夫している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意向を十分把握して計画に反映させるため、家族等関係者がしっかり考える機会を作り、職員会議で議論したうえで介護計画を立案している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は月1回モニタリングし、短期計画は3ヶ月、長期計画は6ヶ月、急変時は臨機応変に見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	話し相手を求めて併設のデイサービスに出かけたり、ユニット間の交流やボランティアの協力を得た通院、外出介助などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もそれまでのかかりつけ医を希望する場合は意思を尊重し、職員が情報の共有や関係構築のために同行することもある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設6年で2人看取った経験がある。食事が出来なくなった段階で、家族、看護師、職員、管理者らがターミナルケアについて話し合う。現況はまだその段階にある入居者がいない。		職員の入替わりやユニットリーダーの変更があった後なので、ターミナルケアの方針について全職員で再確認し、共有する必要があると思われる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員と入居者の信頼関係のうえであることは理解できるが、食卓等での会話にもう少し配慮が感じられるのではないと思われる。個人情報の取扱いには十分注意している。		申し送り時の言葉遣いや時と場所を考える等、尊厳の確保を今一度全職員で再確認することが必要と思われる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状、一人ひとりのペースに職員が追いつかず、やむをえず複数を単位とした暮らしが中心になっている。		職員の技能向上や連携プレイ、管理者やボランティアの協力などを得て、一人ひとりの希望に沿った暮らし方を支援することが重要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対面式カウンターキッチンで、調理の音や匂い、会話が聞こえてくる。食材の買出し、調理、後片付けなどに入居者の協働がある。楽しく食べるための工夫が盛りつけや会話でなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせる事は、時間帯によっては困難であるが、毎日、一日おき、週2回など個人の好みやペースで入浴を楽しむことが出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたむ事、ランチョンマットを消毒綿で拭く事等を役割にしている入居者がいる。また、ホームでの習字教室、歌やゲーム、外食など、毎日何らかの楽しみごとが準備されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿った外出は困難であるが、近くの神社やお寺への散歩、外食や映画に行く支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯目的に玄関が施錠されているが、日中はセンサーで対応している。外に出ていく入居者がいれば、職員は後から見守りながら付いていくようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は夜間を想定しての火災訓練や消防署の救命救急訓練を受けている。今後は地域の人々の協力を呼びかけるとさらによいと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表に記録され、看護師に報告されている。栄養のバランスは栄養士が管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	先進的な取り組みでモデルになったバリアフリー構造のホームの共用部分は、くつろげる畳や木製の家具、季節の飾りや花々で居心地のよい空間になっている。採光も配慮され、訪ねてきた子供たちのにぎやかな声が普通の家庭を思わせる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は家族の協力を得て、使い慣れた家具や衣類、思い出の品、写真や装飾品などが持ち込まれ、居心地のよい、安全な部屋になるよう工夫されている。		